

令和5年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
分担研究報告書

非薬物的治療法を含めたサポート体制の構築に関する検討

研究分担者

新井 哲明 筑波大学 医学医療系臨床医学域精神医学・教授

**研究要旨**

認知症および軽度認知障害に対する非薬物的治療法を含めたサポートについて文献検索によるレビューを行った。その結果、言語・コミュニケーション訓練、運動プログラム、音楽療法、認知刺激や認知リハビリテーション、介護者のスキルアップを目的とした介護教育プログラムや心理的介入はそれぞれの目的に応じて有効であることが明らかとなった。今後、抗アミロイドβ薬を使用できない患者・家族や抗アミロイドβ薬が導入できたとしてもこれらの非薬物的治療法が有用と考えられる患者・家族に対してこれらの情報提供を行えるシステムを整備していくことが重要と考えられる。

**A. 研究目的**

抗アミロイドβ薬が上市され、その作用機序から多くの患者・家族が抗アミロイドβ薬に対して期待を抱いている。一方、抗アミロイドβ薬はアミロイド関連画像異常（ARIA）などが起こり得ることから適正推進使用ガイドラインが定められており、抗アミロイドβ薬を希望しても使用できない患者が一定程度存在する。このため、抗アミロイドβ薬が使用できない場合に代替としての非薬物的治療法を提示できることが重要となる。そこで、本研究では、認知症および軽度認知障害（MCI）に対する非薬物的治療についてのエビデンスについて文献的検索を行った。

**B. 研究方法**

Pubmed を使って以下の検索式で検索を行った。  
(Dementia OR Mild Cognitive Impairment)  
AND (Non-pharmacological intervention OR Cognitive stimulation OR Cognitive training OR Multisensory stimulation OR Reminiscence therapy OR Reality orientation OR Validation therapy OR Music therapy OR Art therapy OR Dance/movement therapy OR Physical exercise OR Social engagement OR Occupational therapy OR Mindfulness-based interventions OR Sleep interventions OR Caregiver support OR Home-based interventions OR Therapeutic environments OR Technology-based interventions OR Supplementation OR Nutrition)  
これらの検索を行っていく中で、2022年に「認知症と軽度認知障害の人および家族介護者への

支援・非薬物的介入ガイドライン 2022」（非薬物的介入ガイドライン）が発表されていたため、文献検索の結果と非薬物的介入ガイドラインでとりあげられている検索結果を照合し、有用なエビデンスを抽出した。

**(倫理面への配慮)**

本研究は文献検索を主とした調査研究である。

**C. 研究結果**

Pubmedの検索結果と非薬物的介入ガイドライン<sup>1)</sup>でとりあげられている文献はほとんど重複していた。このため、非薬物的介入ガイドライン<sup>1)</sup>を精査した。その結果、非薬物的介入は3つに大別された。

**C-1. 言語・コミュニケーション障害に対する介入**

- 認知症の言語・コミュニケーション障害に対しては、認知刺激療法（CST）や多感覚刺激環境（MSSE）などの訓練を行うことが有効である。
- 言語障害を主症状とする認知症の換語困難や語の理解障害に対しては、語の意味に焦点をあてた言語・コミュニケーション訓練を行うことが有効である。
- 認知症の人や家族に対して、早期から言語聴覚士が専門的に進行段階に応じた拡大・代替コミュニケーション（AAC）を含めた支援を行うことは有効である。

## C-2. 言語・コミュニケーション障害以外への介入

- 認知症やMCIの人に対して、筋力トレーニングや有酸素運動などを含む複合的な運動プログラムを行うことは有効である。
  - 運動プログラムは、筋力やバランス、心肺機能、移動能力、歩行などの身体的な能力を高め、転倒リスクを減少させる
  - 運動プログラムは持続性の注意や精神運動速度、抑うつ、アパシーなどの改善が期待される
- 音楽療法を含むプログラムを行うことは有効である
  - 音楽療法により、認知機能や認知症の行動・心理症状 (BPSD)、気分障害などを軽減することが期待される
- 認知症やMCIの人に対して、認知刺激や認知リハビリテーションなどを行うことは有効
  - 認知刺激・認知リハビリテーションにより認知機能や認知症の行動・心理症状 (BPSD)、気分障害などの軽減が期待される

## C-3. 家族・介護者に対する支援

- 認知症の人の家族介護者に対して、介護者のスキルアップを目的とした介護教育プログラムや心理的介入を行うことは有効である
  - 介護能力の向上や介護負担の軽減、健康関連QOLの向上に効果的であることが示されている

## D. 考察

認知症・MCI に対する非薬物治療的介入は患者に対しては言語・コミュニケーション障害に対する介入とそれ以外の介入に大別された。このことは、認知症・MCI 患者に対して、言語障害があるかどうかをアセスメントすることの必要性を示しているとも考えられる。言語・コミュニケーション障害は、ADL や QOL の低下に直結しやすいが日々の臨床でこれらの障害については十分に評価されているとは言い難い。日常臨床で使いやすい言語・コミュニケーション障害のアセスメントを確立することが必要と考えられる。

言語・コミュニケーション障害以外に対する介入としては、運動プログラム、音楽療法、認知刺激・認知リハビリテーションの有効性が示されている。これらは認知症患者に対してはデイ

サービスなどで導入されているが、MCI 患者に対してはリソースが不足している。臨床の有効性が示されている中、これらのリソースの充実も今後の課題である。

最後に家族・介護者に対しても介護教育プログラムが有効であることが示されているが、本邦ではまだ系統だった教育プログラムは整備されていない。地域包括支援センターが整備されていくなか、地域包括支援センターでこれらのプログラムが提供できるようになることで、多くの家族・介護者が利用できる体制を構築できる可能性が考えられた。

## E. 結論

非薬物治療的介入について文献検索を行った。その結果、言語・コミュニケーション障害に対する言語・コミュニケーション訓練の他、言語・コミュニケーション障害以外の症状に対する運動プログラム、音楽療法、認知刺激療法などが有効である可能性が示された。また、家族・介護者への教育プログラムも有効である可能性がある。今後は、これらを提供できるシステムの構築が課題である。

## 参考文献

1. 「認知症と軽度認知障害の人および家族介護者への支援・非薬物的介入ガイドライン 2022」作成委員会: 認知症と軽度認知障害の人および家族介護者への支援・非薬物的介入ガイドライン 2022, 新興医学出版社, 東京, 2022

## F. 研究発表

1. 論文発表
1. Nakayama K, Nemoto K, Arai T. Nucleus accumbens degeneration in spinocerebellar ataxia type 2: a preliminary study. *Psychogeriatrics*. 2024;24(2):345-354.
2. Edahiro A, Okamura T, Arai T, Ikeuchi T, Ikeda M, Utsumi K, Ota H, Kakuma T, Kawakatsu S, Konagaya Y, Suzuki K, Tanimukai S, Miyanaga K, Awata S. What happens if your colleague was the first person to notice that you have young-onset dementia? *Geriatr Gerontol Int*. 2024;24(1):176-178.
3. Yoon J, Sasaki K, Tateoka K, Arai T, Isoda H, Okura T. Evaluation of Cognitive and Physical Function Among Older Adults by Their Physical Activity: A Cross-Sectional Kasama Study, Japan. *J Alzheimers Dis*. 2023;96(4):1801-1812.
4. Yamada Y, Shinkawa K, Nemoto M,

Nemoto K, Arai T. A mobile application using automatic speech analysis for classifying Alzheimer's disease and mild cognitive impairment. *Comput Speech Lang* 81. June 2023.101514.

5. Edahiro A, Okamura T, Arai T, Ikeuchi T, Ikeda M, Utsumi K, Ota H, Kakuma T, Kawakatsu S, Konagaya Y, Suzuki K, Tanimukai S, Miyanaga K, Awata S. Initial symptoms of early-onset dementia in Japan: nationwide survey. *Psychogeriatrics*. 2023;23(3):422-433.

2. 学会発表（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

なし

**G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）**

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし